



HX Data Platform のサポート

- [トラブルシューティングでの TAC サポートの利用 \(1 ページ\)](#)
- [HyperFlex の Auto Support と Smart Call Home \(2 ページ\)](#)
- [Cisco HX Data Platform サポート バンドル \(9 ページ\)](#)

トラブルシューティングでの TAC サポートの利用

この項では、TAC サポートが支援する一般的なタスクを一覧し、自動サポート オプションの設定方法と HyperFlex サポート バンドルの作成方法を説明します。

サポート バンドルとは、HX Data Platform が内蔵および使用するいくつかのコンポーネントから収集されるログのコレクションのことです。次の内容が含まれています。

- HX Data Platform インストーラ VM：このコンポーネントのログは、インストールに関する情報を提供します。
- VM コントローラ：このコンポーネントのログは、HX Data Platform ファイル システム、クラスタの作成、クラスタの拡張に関する情報を提供します。
- VMware ESXi ホスト：このコンポーネントのログは、HX ストレージクラスタに含まれるノードに関する情報を提供します。
- VMware vCenter：このコンポーネントのログは、HX Data Platform Plug-in および vCenter サーバに関する情報を提供します。

TAC は、サポート バンドルを使用して問題のトラブルシューティングを支援します。

一般的な TAC 支援サポート トピック

以下に、テクニカルアシスタンスセンター (TAC) の支援によって扱われることの多いサポート トピックの一覧を示します。

- HX ストレージクラスタ内のノードにディスクを追加しても認識されない。
- HX ストレージクラスタへのノードの追加が失敗する。

- HX ストレージ クラスタの IP アドレスを変更する。
- 暗号化されたクラスタの破壊を含む、クラスタの破壊。
- HX Data Platform のバージョンのダウングレード。
- HX ストレージ クラスタ作成の失敗。
- ノード再調整のタイムアウトの変更。
- HX ストレージ クラスタ用に最適化されて導入された VDI または VSI の変更。
- 3 ノード クラスタ内のノードの削除。
- 4 ノード クラスタ内のノードの交換。
- HX240c サーバ上でのハウスキーピング SSD の交換。
- 別の HX ストレージ クラスタで削除したノードの再使用。
- 削除されたノードのディスクの再利用。
- ストレージ回復用の cleaner スケジュールの設定。
- MTU 値の 9000 以外への設定。
- サーバ単位でのデフォルトでない大容量 SSD や HDD を使用する際のサイジングのガイドランスがサポート対象。
- HX Data Platform のアンインストール。
- HX ストレージ クラスタのアンインストール。
- HX Data Platform バージョン 1.7.1 より古いバージョンからの HX Data Platform のアップグレード。
- stcli コマンドの whitelist または recreate の使用。

HyperFlex の Auto Support と Smart Call Home

HX ストレージ クラスタを構成して、文書化されたイベントに関する自動化された電子メール通知を送信することができます。通知内の収集されたデータを使用して、HX ストレージ クラスタの問題のトラブルシューティングに役立てることができます。

自動サポート (ASUP)

自動サポートは、HX Data Platform を通じて提供されるアラート通知サービスです。自動サポートを有効にすると、HX Data Platform から、通知の受信先として指定された電子メールアドレスまたは電子メールエイリアスに通知が送信されます。自動サポートは通常、HX ストレージ クラスタの作成時に SMTP メール サーバを設定し、電子メール受信者を追加して設定します。



(注) 未認証の SMTP のみが ASUP のサポート対象となります。

構成中に [Enable Auto Support] チェックボックスが選択されていない場合、次の方法を使用して自動サポートをクラスタの作成後に有効にすることができます。

クラスタ作成後の ASUP 構成方法	関連トピック
HX Connect ユーザ インターフェイス	HX Connect を使用した自動サポートの構成 (4 ページ)
コマンドライン インターフェイス (CLI)	CLI を使用した通知設定の構成 (5 ページ)
REST API	Cisco HyperFlex は Cisco DevNet での REST API をサポートします。

自動サポートを使用して、HX ストレージクラスタをモニタリング ツールに接続することもできます。

Smart Call Home (SCH)

Smart Call Home は、HX ストレージクラスタを監視し、ビジネスの運営に影響をおよぼす前に問題にフラグ付けして解決を開始する、自動化されたサポート機能です。これにより高いネットワーク可用性と運用効率の向上をもたらします。

Call Home は、さまざまな障害や重要なシステムイベントを検出してユーザに通知する、Cisco デバイスのオペレーティング システムに組み込まれている製品機能です。Smart Call Home は Call Home の基本機能を高めるために自動化機能と利便性向上機能を追加します。Smart Call Home を有効にすると、Smart Call Home に Call Home メッセージ/アラートが送信されます。

Smart Call Home は Cisco の多くのサービス契約に含まれており、次が含まれます。

- 自動化された、24 時間の機器監視、プロアクティブな診断、リアルタイムの電子メールアラート、サービス チケットの通知、および修復の推奨。
- Call Home 診断とインベントリ アラームをキャプチャおよび処理することにより指定された連絡先に送信される、プロアクティブなメッセージング。これらの電子メールメッセージには、自動的に作成された場合に Smart Call Home ポータルと TAC ケースへのリンクが含まれています。
- Cisco Technical Assistance Center (TAC) による優先サポート。Smart Call Home では、アラートが十分に重大な場合、TAC ケースが自動的に生成され、デバッグおよび他の CLI 出力が添付されて、https 経由で適切なサポート チームにルーティングされます。
- カスタマイズされたステータス レポートおよびパフォーマンス分析。
- 次に対する Web ベースのアクセス：1 箇所における修復のためのすべての Call Home メッセージ、診断、および推奨、TAC ケースのステータス、すべての Call Home デバイスの最新のインベントリおよび構成情報。

HX ストレージクラスタ、あなた、そしてサポートの間で自動通信を確保するには、[データコレクションの Smart Call Home の構成 \(6 ページ\)](#) を参照してください。

HX Connect を使用した自動サポートの構成

通常は、HX ストレージクラスタの作成中に自動サポート (ASUP) が設定されます。設定されなかった場合、HX Connect ユーザ インターフェイスを使用してクラスタ作成後の設定を有効にすることができます。

ステップ 1 HX Connect にログインします。

ステップ 2 バナーで、**[Edit settings]** (歯車アイコン) > **[Auto Support Settings]** の順にクリックして次のフィールドに記入します。

UI 要素	基本情報
[Enable Auto Support (Recommended)] チェック ボックス	次を有効にすることで、この HX ストレージクラスタの自宅に発信を構成します。 <ul style="list-style-type: none"> • 分析のための Cisco TAC へのデータ配信。 • プロアクティブサポートの一環としてサポートからの通知。
[Send service ticket notifications to] フィールド	通知を受信する電子メール アドレスを入力します。
[Terms and Conditions (使用条件)] チェック ボックス	エンドユーザー使用契約。自動サポート機能を使用するには、このチェック ボックスをオンにする必要があります。
[Use Proxy Server] チェックボックス	<ul style="list-style-type: none"> • Web プロキシ サーバ url • Port • Username • Password

ステップ 3 **[OK]** をクリックします。

ステップ 4 バナーで、**[Edit settings]** (歯車アイコン) > **[Notifications Settings]** の順にクリックして次のフィールドに記入します。

UI 要素	基本情報
[Send email notifications for alarms] チェック ボックス	<p>オンにした場合は、次のフィールドを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Mail Server Address] • [From Address] : サポート サービス チケットの HX ストレージ クラスタを識別するために使用し、また自動サポート通知の送信者として使用するメールアドレスを入力します。現在、サポート情報はこのメールアドレスには送信されません。 • [Recipient list] (カンマ区切り)

ステップ 5 [OK] をクリックします。

CLI を使用した通知設定の構成

HX ストレージ クラスタからアラーム通知を受信する設定を構成および確認するには、次の手順に従ってください。



(注) 未認証の SMTP のみが ASUP のサポート対象となります。

ステップ 1 ssh を使用して HX ストレージ クラスタ内のストレージコントローラ VM にログインします。

ステップ 2 SMTP メール サーバを設定し、設定を確認します。

指定された受信者に電子メール通知を送信するために SMTP メールサーバで使用される電子メールアドレスです。

シンタックス : `stcli services smtp set [-h] --smtp SMTPSERVER --fromaddress FROMADDRESS`

例:

```
# stcli services smtp set --smtp mailhost.eng.mycompany.com --fromaddress smtpnotice@mycompany.com
# stcli services smtp show
```

ステップ 3 ASUP 通知を有効にします。

```
# stcli services asup enable
```

ステップ 4 受信者の電子メールアドレスを追加し、設定を確認します。

電子メール通知を受信する電子メールアドレスまたは電子メールエイリアスのリストです。電子メールが複数ある場合はスペースで区切ります。

シンタックス : `stcli services asup recipients add --recipients RECIPIENTS`

例:

```
# stcli services asup recipients add --recipients user1@mycompany.com user2@mycompany.com
# stcli services asup show
```

ステップ 5 HX ストレージクラスタの eth1:0 の IP アドレスを所有しているコントローラ VM から、電子メールにテスト ASUP 通知を送信します。

```
# sendasup -t
```

eth1:0 の IP アドレスを所有しているノードを確認するには、ssh を使用して HX ストレージクラスタの各ストレージコントローラ VM にログインし、ifconfig コマンドを実行します。他のノードから sendasup コマンドを実行しても、出力は何も返されず、受信者はテストを受信しません。

ステップ 6 すべてのストレージコントローラ VM の IP アドレスから電子メールを送信できるように電子メールサーバを設定します。

データ コレクションの Smart Call Home の構成

データ コレクションはデフォルトで有効にされますが、インストール時にオプトアウト（無効化）することができます。クラスタ作成後のデータ コレクションを有効にすることもできます。アップグレード中に、Smart Call Home がレガシー構成に基づいて設定されます。たとえば、stcli services asup show を有効にすると、アップグレード時に Smart Call Home が有効になります。

HX ストレージクラスタに関するデータ コレクションは、https を介して Cisco TAC に転送されます。インストールされているファイアウォールがある場合、Smart Call Home のプロキシサーバの構成は、クラスタ作成の後に完了します。



(注) HyperFlex Data Platform リリース 2.5(1.a) では、Smart Call Home Service Request (SR) の生成でプロキシサーバは使用されません。

Smart Call Home を使用するには次の必要があります。

- 対応する Cisco Unified Computing Support Service 契約または Cisco Unified Computing Mission Critical Support Service 契約と関連付けられた Cisco.com ID
- 登録されるデバイス用の Cisco Unified Computing Support Service または Cisco Unified Computing Mission Critical Support Service

ステップ 1 HX ストレージクラスタ内のストレージコントローラ VM にログインします。

ステップ 2 サポート付きの HX ストレージクラスタを登録します。

HX ストレージクラスタを登録すると、収集されたデータに ID を追加し、Smart Call Home を自動的に有効にします。HX ストレージクラスタを登録するには、電子メールアドレスを指定する必要があります。登録後、このメールアドレスは、問題があり TAC のサービス要求が生成されるたびにサポート通知を受け取ります。

- (注) Hyperflex で Smart Call Home を設定するときに、登録を完了するためのリンクを含む電子メールが設定済みのアドレスに送信されます。この手順を完了していない場合、デバイスは非アクティブ状態のままになり、自動サービス リクエストはオープンになりません。

構文：

```
stcli services sch set [-h] --email EMAILADDRESS
```

例:

```
# stcli services sch set --email name@company.com
```

ステップ 3 HX ストレージ クラスタからサポートへのデータ フローが稼働していることを確認します。

稼働しているデータ フローにより、生じる可能性のある問題のトラブルシューティングをサポートできる関連情報をすぐに利用できます。

-すべて オプションの HX クラスタ内のすべてのノードのコマンドを実行します。

```
# asupcli [--all] ping
```

HX ストレージ クラスタを HyperFlex 1.7.1 から 2.1.1b にアップグレードする場合は、次のコマンドも実行します。

```
# asupcli [--all] post --type alert
```

次のエラーが表示される場合はサポートに問い合わせてください。

```
root@ucs-stctlvm-554-1:/tmp# asupcli post --type alert
/bin/sh: 1: ansible: not found
Failed to post - not enough arguments for format string
root@ucs-stctlvm-554-1:/tmp#
```

ステップ 4 (省略可能) ポート 443 を介した Smart Call Home のアクセスを有効にするためにプロキシ サーバを設定します。

クラスタの作成後、HX ストレージ クラスタがファイアウォールの背後にある場合は、Smart Call Home プロキシサーバを構成する必要があります。サポートは、url: <https://diag.hyperflex.io:443> エンドポイントでデータを収集します。

1. 既存の登録メールとプロキシ設定をすべてクリアします。

```
# stcli services sch clear
```

2. プロキシと登録メールを設定します。

構文：

```
stcli services sch set [-h] --email EMAILADDRESS [--proxy-url PROXYURL] [--proxy-port PROXYPORT]
[--proxy-user PROXYUSER] [--portal-url PORTALURL] [--enable-proxy ENABLEPROXY]
```

構文の説明	オプション	必須またはオプション	説明
	--email EMAILADDRESS	必須です。	Cisco サポートからのメールを受信する人の電子メールアドレスを追加します。配布リストまたはエイリアスを使用することを推奨します。
	--enable-proxy ENABLEPROXY	オプション。	プロキシの使用を明示的に有効または無効にします。
	--portal-url PORTALURL	オプション。	代替の Smart Call Home ポータルの URL を指定します (該当する場合)。
	--proxy-url PROXYURL	オプション。	HTTP プロキシの URL を指定します (該当する場合)。
	--proxy-port PROXYPORT	オプション。	HTTP プロキシのポートを指定します (該当する場合)。
	--proxy-user PROXYUSER	オプション。	HTTP プロキシのユーザを指定します (該当する場合)。 HTTP プロキシのパスワードを指定します (メッセージが表示される場合)。

例:

```
# stcli services sch set
--email name@company.com
--proxy-url www.company.com
--proxy-port 443
--proxy-user admin
--proxy-password adminpassword
```

3. プロキシサーバが動作しており、データが HX ストレージクラスタからサポート ロケーションに流れることを確認するために Ping を送信します。

```
# asupcli [--all] ping
```

-すべて オプションが HX クラスタ内のすべてのノードで、コマンドを実行します。

ステップ 5 Smart Call Home が有効になっていることを確認します。

Smart Call Home の設定が `set` の場合、自動的に有効になります。

```
# stcli services sch show
```

Smart Call Home が無効の場合は手動で有効にします。

```
# stcli services sch enable
```

ステップ 6 自動サポート (ASUP) 通知を有効にします。

通常は、HX ストレージクラスタの作成中に自動サポート（ASUP）が設定されます。設定されなかった場合、HX Connect または CLI を使用してクラスタ作成後の設定を有効にすることができます。詳細については、「[HyperFlex の Auto Support と Smart Call Home](#)」を参照してください。

Cisco HX Data Platform サポートバンドル

サポートバンドルは、コマンドラインインターフェイスから生成できます。

また、HX Connect ユーザーインターフェイスでは、HX ストレージクラスタにあるすべての選択されたコントローラ VM および ESXi ホストからログを収集するサポートバンドルを生成することもできます。vCenter ログは HX Connect からは収集されません。

すべてのサポートバンドルのタイムスタンプは、クラスタのタイムゾーンまたはサーバのタイムゾーン設定に関係なく、UTC タイムゾーンで表示されます。

生成したサポートバンドルは、TAC で使用するために HX Data Platform FTP サーバにアップロードできます。既存のサポートバンドルをダウンロードすることもできます。サポートバンドルタイプ：

- 基本的な Cisco HX Data Platform ログ。
- 詳細：基本的なサポートバンドルに加えて、環境のハイパーバイザのログとパフォーマンスデータを収集します。
- 拡張：拡張サポートバンドル オプションのみを使用して生成された場合は、コアファイルのみが含まれます。推奨されるサポートバンドルおよび拡張サポートバンドル オプションを使用して生成すると、コアファイルと詳細なサポートバンドルが含まれます。
- その他：コマンドラインインターフェイスを介して生成された場合。

HX Connect を使用したサポートバンドルの生成

HX Connect ユーザーインターフェイスを使用すると、ローカルの HX ストレージクラスタ内のすべてのコントローラ VM および ESXi ホストからログを収集するサポートバンドルを生成できます。仮想マシンとそのデータを保護するために複製を使用している場合、サポートバンドルを生成する必要があるときは、リモート HX ストレージクラスタからもサポートバンドルを生成する必要があります。vCenter ログは HX Connect からは収集されません。



(注) CLI を使用してサポートバンドルを生成する場合、サポートバンドルは HX Connect ユーザーインターフェイスに **[Other (その他)]** のタイプとして表示されます。

始める前に



(注) HXDP バージョン 3.5 (2a) または 3.5 (2b) を使用している場合は、HX Connect を使用しないでください。Storfs バンドルを生成するには、個々の SCVMs の CLI を使用することをお勧めします。

HX Connect からログを作成すると、storfs がクラッシュして Hyperflex クラスターの停止が発生する可能性があります。

ステップ 1 HX Connect にログインします。

ステップ 2 バナーで **[Edit settings]** (歯車アイコン) > **[Support Bundle]** をクリックします。

または、**[System Information]** > **[Support Bundle]** をクリックします。

(注) FQDN または IP アドレスのいずれかがホスト名だけではなく、HX 接続にアクセスできなければなりません

ステップ 3 **[Generate]** をクリックします。

サポート バンドルの作成には、1 ~ 2 時間かかることがあります。

ステップ 4 サポート バンドルが表示されたら、*supportBundle.zip* をクリックして、このファイルをローカルコンピュータにダウンロードします。

サポート バンドルのダウンロードには、1 ~ 2 時間かかることがあります。

既存のサポート バンドルも同じ方法でダウンロードします。

次のタスク

これで、このファイルを HX Data Platform FTP サーバにアップロードできます。

監査ログの生成

HX Connect ユーザ インターフェイスでサポート バンドルを生成すると、そのバンドルに自動的に監査ログが含まれます。

ステップ 1 サポート バンドルを生成してダウンロードします。[HX Connect を使用したサポート バンドルの生成 \(9 ページ\)](#) を参照してください。

必要に応じて、既存のサポート バンドルをダウンロードすることもできます。

ステップ 2 サポート バンドルを解凍し、ローカル コンピュータにファイルを抽出します。

ステップ 3 各コントローラ VM で、`/var/log/shell.log` を検索します。

ステップ 4 各 `shell.log` ファイルを開き、キーワード `stcli` を使用して監査証跡レコードを検索します。

このログには、シェルで呼び出される `stcli` 呼び出しの監査が含まれています。

例:

```
2017-07-14T16:48:39.135+00:00 SpringpathControllerHOCBY4KNF1 shell: [pid=20396, uid=0] stcli cluster restart
```

ここで、

- 2017-07-14T16:48:39.135+00:00 は、`stcli` コマンドが呼び出された時刻です。
- `uid=0` は、`stcli` コマンドを呼び出したユーザの ID を示します。この例では、ユーザ ID は 0 となっているので、このユーザは `root` です。
- `stcli cluster restart` コマンドは、実行された `stcli` コマンドを提供します。

ステップ 5 各コントローラ VM で、`/var/log/springpath/audit-rest.log` を検索します。

ステップ 6 各 `audit-rest.log` ファイルを開き、キーワード **audit** を使用して監査証跡レコードを検索します。

このログには、REST API の監査が含まれています。

例:

```
2017-06-29-23:26:38.096 - Audit - 127.0.0.1 -> 127.0.0.1 - create /rest/datastores/00000000d8902473:00000000000100ef?action=mount; 200; administrator@vsphere.local 555ms
```

ここで、

- 2017-06-29-23:26:38.096 は、REST API が呼び出された時刻です。
- 127.0.0.1 は、呼び出し元の IP アドレスです。
- `create` は、実行されたアクションです。
- `/rest/datastores/00000000d8902473:00000000000100ef?action=mount` は、パラメータでアクセスされたリソースです。
- 200 は、このアクションの HTTP ステータスです。
- `administrator@vsphere.local` は、この REST API を呼び出したユーザです。
- 555ms は、この操作の所要時間です。

ステップ 7 上記の手順ですべての監査証跡レコードを収集して、別々のファイルに保存します。

コントローラ VM からのログの収集

コントローラ VM のログを収集するオプションは 2 つあります。

ステップ 1 オプション 1

- a) `ssh` を使用して、各コントローラ VM にログインします。

- b) コマンド `storfs-support` を実行します
ログの生成にかかる時間は約 2 分です。
- c) `/var/support` ディレクトリで `tar.gz` ログファイルを見つけます。次に例を示します。
`storfs-support_2016-06-22--06-06-33_ucs--stctlvm-123-1.eng.storvisor.com.tar.gz`
- d) コントローラ VM から `tar.gz` ファイルを HX Data Platform FTP サーバにアップロードします。

ステップ 2 オプション 2

- a) `ssh` を使用して、各コントローラ VM にログインします。
- b) 次のコマンドを実行します：`asupcli [--all] post --type asup`
`--All` オプションは、HX クラスタ内のすべてのノードでコマンドを実行します。
- c) **Smart Call Home** が無効な場合、生成される `tar.gz` ファイルは `/var/support/asup_default` ディレクトリにあります。
このファイルには、それぞれの ESXi ホストからのログも含まれています。
- d) コントローラ VM から `tar.gz` ファイルを HX Data Platform FTP サーバにアップロードします。

ESXi ホストからのログの収集

ESXi ホストのログを収集するオプションは 2 つあります。

ステップ 1 オプション 1

- a) `ssh` を使用して、各 ESXi ホストにログインします。
- b) コマンド `vm-support` を実行します。
ログの生成にかかる時間は約 5 分です。
- c) `/var/tmp` ディレクトリで `.tgz` ファイルを見つけます。次に例を示します。
`esx-localhost-2016-06-22--06.09.tgz`
- d) ESXi ホストから `.tgz` ファイルを HX Data Platform FTP サーバにアップロードします。

ステップ 2 オプション 2

- a) `ssh` を使用して、各コントローラ VM にログインします。
- b) 次のコマンドを実行します：`asupcli collect --type esx --subtype full`
- c) 各コントローラ VM の `/var/support/esx-asup-default` ディレクトリにある `tar.gz` ファイルを HX Data Platform FTP サーバにアップロードします。
`tar.gz` ファイルには、ESXi ログのみが含まれています。TAC がすべてのログを要求した場合は、[コントローラ VM からのログの収集 \(11 ページ\)](#) を参照してください。

サポートバンドル生成時のスペース不足エラー

コアファイルのサイズや以前に生成されたログファイルによってスペースが使用されていることなどが原因で、ストレージコントローラ VM にサポートバンドルを生成できる十分なスペースがない場合、スペース不足エラーが発生します。サポートバンドルを生成するために `vm-support` コマンドを使用すると、次のエラーが表示されます。

```
error = [Errno 28] No space left
```

このエラーを受信した場合にサポートバンドルを生成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 コアファイルと既存のログファイルを削除するか、またはストレージコントローラ VM 外の場所に移動します。

ステップ 2 ストレージコントローラ VM のコマンドラインにログインします。

ステップ 3 ライトサポートバンドルを生成します。

```
# storfs-support
```

Cisco HX Data Platform インストーラ VM からの導入ログの収集

ステップ 1 `ssh` と次の資格情報を使用して、HX Data Platform インストーラ VM にログインします。

- ユーザ名 : `root`
- パスワード (デフォルト): **Cisco123**

(注) システムは、デフォルトのパスワード [`Cisco123`] で出荷されますので、インストール中にこれを変更する必要があります。ユーザーが入力した新しいパスワードを指定しない限り、インストールを続行できません。

ステップ 2 コマンド `deployment-support` を実行します

ログの生成にかかる時間は 1 分未満です。

ステップ 3 `/var/support` ディレクトリで `tar.gz` ログを見つけます。次に例を示します。

```
storfs-support_2016-06-22--06-25-35_Cisco-HX-Data-Platform-Installer.tar.gz
```

ステップ 4 `.tar.gz` ファイルを Cisco FTP サーバにアップロードします。

vCenter Server からのログの収集

ステップ 1 `ssh` を使用して vCenter サーバにログインします。

ステップ2 コマンド `vc-support -l` を実行します。

vCenter サーバで稼働しているノードの数に応じて、ログの生成には約 10 ～ 20 分かかります。

ステップ3 `/storage/log` ディレクトリでログを見つけます。

ステップ4 ログを Cisco FTP サーバにアップロードします。

vSphere Web Client からのログの収集

vSphere Web Client から、Cisco HX Data Platform ストレージクラスタ ESXi ホスト、コントローラ VM、vCenter サーバのログの一部またはすべてを選択的に収集できます。

ステップ1 vSphere Web Client にログインします。[Navigator] から、[vCenter Inventory Lists] > [Resources] > [vCenter Servers] > [server] の順に選択します。

ステップ2 HX Data Platform クラスタの vCenter サーバを右クリックし、[Export System Logs] を選択します。

ステップ3 [Source] パネルから、ログの収集元サーバを選択します。

ステップ4 オプションで、vCenter ログを含めるには、[Include vCenter Server and vSphere Web Client logs] を選択して [Next] をクリックします。

ステップ5 [Ready to Complete] パネルで、含めるシステム ログを選択します。

[Virtual Machines] を選択し、選択されている各サーバのコントローラ VM のログが含まれるようにします。

ステップ6 [Generate Log Bundle] をクリックします。

ログの生成にかかる時間は約 40 ～ 50 分です。

ステップ7 ログが生成されたら、次の手順に従います。

- [ログバンドルのダウンロード (Download Log Bundle)] をクリックします。
- サポートバンドルをダウンロードする場所を指定します。たとえば、ファイルをローカル PC にダウンロードします。
- [Finish] をクリックします。
- ファイルを Cisco FTP サーバにアップロードします。

Cisco HX Data Platform Plug-in からのログ収集

HX Data Platform Plug-in を使用して、HX ストレージクラスタ ESXi ホストとコントローラ VM のログを収集できます。

ステップ1 vSphere Web Client にログインします。[Navigator] から、[vCenter Inventory Lists] > [Resources] > [Clusters] > [cluster] の順に選択します。

ステップ2 HX Data Platform クラスタを右クリックし、[Cisco HX Data Platform] > [Support] を選択します。

ステップ 3 [Generate Log Bundle] をクリックします。

ログの生成にかかる時間は約 40 ～ 50 分です。

ステップ 4 ログが生成されたら、次の手順に従います。

- a) [ログバンドルのダウンロード (Download Log Bundle)] をクリックします。
- b) サポートバンドルをダウンロードする場所を指定します。たとえば、ファイルをローカル PC にダウンロードします。
- c) [Finish] をクリックします。
- d) ファイルを Cisco FTP サーバにアップロードします。

既存のサポートバンドルのダウンロード



(注) 生成したサポートバンドルは、ローカルコントローラ VM の時刻で午前 0 時 (12:00 a.m) までダウンロードできます。HyperFlex は、サポートバンドルログを 2 つ保存します。新しいサポートバンドルを生成すると、最も古いものが自動的に削除されます。

ステップ 1 vSphere Web Client にログインします。[Navigator] から、[vCenter Inventory Lists] > [Resources] > [Clusters] の順に選択します。

ステップ 2 [cluster] を右クリックし、[HX Data Platform Plug-in] > [Support] を選択し、[Support] ダイアログボックスを表示します。

(注) HX Data Platform Plug-in ではなく、vSphere Web Client から [cluster] を選択します。

ステップ 3 [Download Support Bundle] をクリックします (有効な場合)。

ステップ 4 サポートバンドルを保存する場所 (ローカルコンピュータなど) を指定します。その後、このファイルを HX Data Platform FTP サーバにアップロードできます。

サポートバンドルのアップロード

サポートバンドルを生成したら、次のいずれかの方法で HX Data Platform FTP サーバにアップロードできます。

- FTP : ポート 21 を使います。
- SFTP : ポート 22 を使います。
- HTTPS : ポート 443 を使います。

ftp または sftp を使用したサポートバンドルのアップロード

始める前に

サポートバンドルを生成します。

ステップ 1 FTP クライアント（Filezilla など）を開き、次の情報を使用して HX Data Platform FTP サーバに接続します。

オプション	説明
ホスト	https://ftp.springpathinc.com
[Port]	ftp = 21 sftp = 22
[Username]	cisco
Password	cisco

ステップ 2 HX Data Platform FTP サーバに接続したら、サポート ケース番号を使用してフォルダを作成します。

ステップ 3 ディレクトリを新しいフォルダに変更します。

ステップ 4 このフォルダにサポートバンドルのログ ファイルをアップロードします。

ステップ 5 アップロードが完了したら、Cisco テクニカルアシスタンスセンター（TAC）に連絡して、そのアップロードディレクトリの名前を通知します。

ステップ 6 HX ストレージクラスタのスペースを解放するため、/var/support/ の内容を削除します。

https を使用したサポートバンドルのアップロード

始める前に

サポートバンドルを生成します。

ステップ 1 ブラウザ ウィンドウを開き、Springpath でホストされている HX Data Platform FTP サーバの URL に移動し、次の情報を使用してログインします。

オプション	説明
URL	https://ftp.springpathinc.com
[Username]	cisco
Password	cisco

ステップ 2 HX Data Platform FTP サーバに接続したら、サポート ケース番号を使用してフォルダを作成します。

- ステップ 3** ディレクトリを新しいフォルダに変更します。
- ステップ 4** このフォルダにサポート バンドルのログ ファイルをアップロードします。
- ステップ 5** アップロードが完了したら、Cisco テクニカルアシスタンスセンター (TAC) に連絡して、そのアップロードディレクトリの名前を通知します。
- ステップ 6** HX ストレージクラスタのスペースを解放するため、`/var/support/` の内容を削除します。
-

